

DEBUT 首長

山梨県都留市長 堀内 富久氏

高齢者向けシルバー産業興す リニア実験線観光、農業と連結



ほりうち・とみひさ 1949年山梨県都留市生まれ。67年山梨県立谷村高校卒、電気会社に入社。68年家業の堀内電気入社。2007年山梨県議初当選、2期目で辞職し13年11月の都留市長選出馬。12月に就任。

都留市 甲府盆地とは大菩薩山系を隔てた「郡内」に位置する。絹を織り上げる郡内織物で知られ、公立の都留文科大学がある。

——都留市の課題は。

全国的な問題だが、少子高齢化だ。対策として、高齢者向けの産業を興せないかと思っている。東京などから高齢者に移住してもらえば、介護保険などの負担は移住前の自治体が負担する制度を活用できる。高齢者に来てもらえれば、サポートする医師や介護福祉士らにも来てもらえる。1000人の高齢者が来れば、医師らが700人来る計算で、人口増にも貢献する。

都留市内を流れる桂川の下流が相模川となって神奈川県を流れるため、横浜市と結びつきもある。こうした関係を生かし、高齢者移住を積極的に進める。

2016年には健康科学大学の看護学部が市内に開設されることになっている。スタートは看護師育成だが、将来は介護福祉士を育成するよう働き掛けていきたい。

都留市立病院から産科が08

年に無くなって今日にいたる。隣の富士吉田市や富士河口湖町には産科がある。少子高齢化対策を考えるのに、産科が無いのでは話にならない。なんとか産科医に来てもらって、産科を復活させるのが急務だ。

都留市はかつては織物、その後は鉄工所が盛んだったが、環境は厳しくなっている。そこで例えば高齢者向けの車いすを市内の企業が製造するような新たな事業展開に結びつけたい。こうしたこと全体を「シルバー産業」として育成したい。

——リニア中央新幹線の実験線が都留市を通っている。

全国で都留市に唯一あるのがリニアの実験線の乗車施設だ。これを生かさないと手はない。現在の見学施設は県が拡張する工事を進めており、見学施設の近くには県が大型バスの駐車場を建設する予定だ。ここで大型バスからシャトルバスに乗り換える。秋からは有料で試乗できるようになり、年間で20万～30万人の来訪者が見込まれる。

都留市には水掛菜や水ねぎといった特色ある野菜など農業が

盛んだ。これまでは農業振興を考えてこなかったが、リニアを活用して売り込んでみたい。大型バス駐車場の一角に野菜を売るだけでなく、体験農業や6次産業化のための加工場を設けることを検討している。これまで市は観光と農業についてはそれほど力を入れてこなかったが、産業振興の柱に据えたい。

——都留市には大学が集積している。

人口3万2000人の市で、市立である都留文科大学（文大）を抱えているのは全国でも珍しい存在だ。シリアで亡くなった（戦場ジャーナリストの）山本美香さんも文大の出身だ。山梨県立産業技術短期大学の都留キャンパスのほかに、高校では1000人近くが学ぶ県内最大級の都留興譲館高校もある。これに健康科学大学看護学部が加わるわけで、こうした教育施設を生かしていきたい。

（聞き手は

甲府支局長 清水 英徳）